

## 第16回根室市創生有識者会議議事録（令和4年12月7日開催）

### 1 開会（事務局・川崎室長）

（事務局・川崎室長）

ただいまより第16回根室市創生有識者会議を開会いたします。

開会にあたり、石垣市長よりご挨拶を申し上げます。

（石垣市長）

皆様、本日は、師走を迎え大変ご多忙の中、根室市創生有識者会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。会議の開催にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

委員の皆様には、日頃より市政の推進並びに本市の地域活性化のため、多大なるご支援、ご尽力を賜っておりますことに対し、深く感謝を申し上げます。

さて、本日の会議では、昨年6月に策定しました第2期根室市創生総合戦略、本総合戦略に掲げている「経済雇用対策」、「子育て支援」、「人材育成」の3つの政策パッケージの達成状況について、令和3年度の取り組みの効果検証を行うとともに、引き続き、地域の振興や発展に向け、安定した雇用、新たな人の流れ、子育て環境の充実を図り、誰もがこの町に誇りを持って住み続けられるまちづくりを進めるためにも、各施策の効果が最大限に発揮されるよう、総合戦略の一部改訂について協議をいただくこととしております。

この創生会議、ここ数年は、皆様の意見を賜りながら、関係人口の拡大をテーマとする取り組みを強化することに努めてきました。その最たるものが、ふるさと納税であり、270万人を数えました。この成果を地方創生に最大限に活かし、次なる戦略を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、本日は、委員皆様から忌憚のないご意見をいただき、根室市創生の更なる推進に繋げて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

（事務局・川崎室長）

それでは、これより議事に入りたいと思います。これからの進行は石垣市長にお願いいたします。

### 2 報告事項（進行：石垣市長）

〔市長〕

それでは、早速議事に入っております。本日は、報告事項3件、協議事項1件となっております。

報告事項（1）根室市人口動態分析、（2）根室市市民意識調査報告書について、事務局より説明をお願いします。

#### （1）根室市人口動態分析について〔説明：事務局・齊藤主査〕※資料1に基づき説明

1ページ目は、人口と世帯数を表したものです。根室市の総人口は、1968年（昭和43年）の49,892人をピークとして、1974年から48年連続の減少となっており、本年10月末時点の人口においては、23,654人となり、ピーク時と比べて半数以下に減少している状況となっております。近年の人口増減推移を見ますと、下段の増減の推移表になりますが、2018・2019年と400人台で推移してきた減少数は、2021年は600人台となり、2022年10月現在は577人、昨年同時期で538人で、より人口減少が進んでいる状況です。また、2018～2020年まで男性の方が多く減少しておりましたが、2021年から男女比が逆転し、女性が多く減少しております。

2ページの年齢3区分別人口の推移を見ますと、上記棒グラフの紫色部分になりますが、0～14歳の年少人口については、2000年の5,074人から2022年10月末時点で2,192人へ減少し、また、茶色部分になります65歳以上の老年人口については、2000年の6,025人から8,378人へ増加しており、少子高齢化が進んでいる状況がわかります。年々増加していた老年人口については、2019年にピークを過ぎ、減少に転じたところではありますが、年少人口と生産年齢人口と比較して、多く減少しているため高齢化率が上昇しております。また、生産年齢人口においては、2013年に男性数が女性数を上回って以降、この年代における女性の減少が拡大し、生産年齢人口における男女の人口差は年々拡大しておりますが、2020年を基準とした生産年齢人口及び老年人口は、根室市人口ビジョン推計値と比べ、抑制されており、総人口に対しても抑制されていることがわかります。

3ページは、2000年と2021年の人口ピラミッドを表したものです。人口ピラミッドの形状は、少子高齢化がさらに進むことで、人口のボリューム層が高齢者に偏ったことにより逆三角形に近い「つぼ型」へ変化し、年齢3区分の構成比においては、2000年→2021年にかけて、老年人口は全人口の約1.8割→約3.5割へ増加し、生産年齢人口は約6.6割→約5.5割へ減少、年少人口は約1.5割→約1.0割へ減少していることがわかります。なお、根室市の総人口は女性が男性より約1,000人多い中、赤枠の若年層25～44歳の女性人口が少ないことがこのグラフからわかります。

4ページは、自然動態の推移を表したものです。グラフのとおり、出生数は、1980年から1999年まで死亡者数を上回っていましたが、2000年、死亡数が出生数を上回る状況となってから、出生数と死亡者数のグラフの差が開いており、年々自然減が増加しております。この自然減の増加が、今の根室市の人口減少の構造的な要因であります。

5ページ、社会動態においては、1977年のサケマス200海里内での規制による漁業の衰退を受け、1980年に転出者数がピークを迎え、1990年には800人も転出超過となったところであります。その後は、都市への人口流出等により、年間で300人前後の転出超過が続いておりますが、現在においては、転入者と転出者のグラフの開きがほぼ同じ状況であることから、転出超過の厳しい現状は変わっておりませんが、社会減は大きく増えておりません。なお、グラフからわかりますとおり、本年10月現在で、社会減283人に対し前年同期が294人で縮小傾向にあり、社会減の縮小は良い傾向であると受けとめております。

6ページは、年齢3区分別で分析した内容となっております。上段の転入者数の推移の表をご覧ください。男女共に2021年の15～64歳の生産年齢人口は、2020年と比較し増加していることがわかります。また、中段の転出者数の推移の表から、男性の転出が減少しており、人口抑制となる良い傾向にありますが、下段の転出超過の表になります、女性の転出超過については、年齢3区分別全て増加している状況にあります。

7ページは、生産年齢人口を5歳階級別で細分化し、どの年齢層で増減が大きいのかを把握するものです。上段の転入の表のオレンジ色部分になりますが、15～44歳までの男性について、2020年と比べて転入者数が増加していることがわかります。また、女性においても20～24歳、30～34歳など転入者数が増加している状況です。男性については、転出超過が減少している一方、女性においては、特に20～39歳の年齢層での転出者

増加により、女性全体として転出超過が進んでいる状況です。

8ページの表は年少人口を5歳階級別に細分化し、どの区分で増減が大きいのかを把握するものです。表の下段の転出超過の表をご覧ください。2020年と2021年の転出超過の比較において、2021年は、男性において年齢3区分別全てで改善傾向にあるものの、女性は転出超過傾向にあることがわかります。なお、年少人口の減少について、出生数の減少の要因以外として、家族での転出による影響が考えられるところです。

9ページは、年齢階級別順位同数の時系列分析であります。このグラフについては、経済産業省、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局の提供データであるRESASを用いております。このページでは人口変化の一因である社会増減について、世代別、地域別での転入・転出を分析し、転入促進・転出抑止すべき世代、地域を把握するものです。左記のグラフについては、5歳階級ごとにその階級の人口が5年後どのように移動したかを表した内容です。特に10代から20代前半の流出が大きいことがわかりますが、これは大学・専門学校等の進学を契機とした転出が考えられます。また、年齢別で減少しているなか、25～29歳の流入が大きいことがわかりますが、このことについては良い傾向と受け止めており、根室へ転勤される方など、25～29歳の働き手が多数いると考えられます。

10ページは、RESAS データを利用したものであり、2021年の社会増減の背景として、転入・転出先の上位となっている地方公共団体の傾向を把握したものであります。転入・転出共に、札幌市が最も多く、釧路市や中標津町などの近隣の地方公共団体への移動も見受けられます。また、小樽市、千歳市、網走市、舞鶴市などの移動も見受けられます。なお、基礎知識欄に記載のとおり外国人の転入転出者のうち、国外⇄国内の移動者は含まないため、6ページの転入・転出者数と一致しておりません。

11ページは、9ページの年齢階級別純移動数の時系列分析の分析結果を踏まえ、転入・転出の多い年代である20代にスポットを当て、どの地方公共団体へ多く転入・転出しているのかを分析することで、転入を促進すべき、または転出を抑止すべき年代・属性を把握します。この分析において、20歳代の転入・転出数の比率を見ると、男性は転入超過となっていますが、女性は51人の転出超過となり、特に札幌市への転出が顕著であることがわかります。

12ページは、転入・転出の多い年代である20代未満にスポットを当て、分析したものです。この分析においては、転入・転出数の比率を見ると、男女共に、転出超過の傾向にあり、特に転出超過は大きい自治体は札幌市で、進学及び市外就職によるものと考えられます。

13ページをお開きください。人口動態分析のまとめとなります。2019年と400人台で推移していた人口減少幅は、2020年は599人、2021年は627人、2022年10月末現在は577人で、昨年同期（538人）と比較すると若干増加傾向にあります。また、2022年10月末現在においても、前年同期に比べ出生数が減少し、死亡者数が増加していることから、自然減が進んでいる状況です。これまでの人口減少は、2018年から2020年まで男性が多い状況でしたが、2019年から男女が逆転し、女性の減少が進んでいる状況です。社会増減においては、2021年の男性の生産年齢人口が2020年と比べ、転入増及び転出減により減少幅が縮小し、転出超過が大きく改善し、良い傾向が見られる一方、女性については、転出増が加速しており、若年層の女性（20～39歳）の減少が顕著にみられるところでもあります。また、総人口からみた転出超過は、2021年は2020年と比べて改善している状況にあり、特に20歳台男性は

転入超過で良い傾向があるものの、20歳台の女性の転出超過が大きい状況であります。自然増減においては、先ほども申し上げましたが、年々出生数が減少傾向、死亡者数も増加傾向にあり、自然減が若干進んでいる状況です。また、若年層の女性（20～39歳）の減少は、少子化への影響も考えられ、今後においては、若い女性が住みたい、働きたい、訪れたいと心から感じられるまちづくりが重要になってくると思います。

最後に、14、15ページについては、参考資料として年齢別人口及び月別人口推移の表を掲載しております。

## （2）根室市市民意識調査報告書について〔説明：事務局・小川主査〕※資料2に基づき説明

まず、調査の目的についてであります。本市では、「第9期根室市総合計画」及び「第2期根室市創生総合戦略」を策定し、将来のまちづくりの目標や将来像を定め、進捗度合いや有効性を逐次確認し、必要に応じて見直しを行っていくなど、実情に応じた対応が不可欠であることから、毎年16歳以上の市民を対象として、無作為に約3,000名を抽出し、調査を実施しているものであります。

次ページ以降につきましては、市民意識調査における、22の設問に対する各評価でありますので、後ほど、ご一読いただければと思います。

96、97ページは、今年度の調査結果を踏まえた、市民意識調査結果のまとめとなります。97ページの、「根室市民の住み良さ、定住希望に関する意識の推移」についてであります。上段の表のとおり「住み続けたい」という定住意向は、平成28年度調査以降、僅かではありますが、増加傾向にあります。これは下段の表にあるとおり、居住年数が長く、高齢者ほど割合が高い傾向であります。第1期根室市創生総合戦略に掲げた子育て支援の取り組みとして、小中学校の給食費無償化や出産支援事業、子ども向け屋内遊戯施設「わんぱく」の開設など、子育て世帯への経済的負担軽減対策について一定の効果があったものと捉えており、定住意向について向上したと考えているところであります。

102ページは、成果目標及びKPIの動向について、説明いたします。中段の四角で囲ってあります12項目につきましては、総合戦略策定時の基準となった指標値から、今年度調査で上昇が確認された指標となっております。中でも、「子育て環境や支援に満足している保護者の割合」については、計画策定時7.7%から令和2年度調査時10.6%、本年度調査時12.2%へと上昇しているほか、「乳幼児や子どものための福祉施策の状況」については、5.7%から10.3%へ、本年度調査時13.0%へと着実に上昇傾向にあり、子育ての環境や支援などの評価が高くなっているところであります。

市民の自由意見としては、「市で取り組んでいる子育て支援についての、「がんばり」が伝わる。」など、感謝の声もあり、また、支援の継続や「わんぱく」の充実を求める意見も多数見受けられるところであります。

続きまして、次ページ中ほど、今年度の調査で低下が確認された指標についてであります。健康状態、趣味や生きがい、高齢者福祉、公共交通関連、買い物の利便性関連が低下しており、過去の調査と同様に不満足が確認されていることから、より一層の重点的な対応が求められている分野であると考えられます。特に、森林景観に関しては、道路等のゴミや、太陽光発電や風力施設等による景観の懸念が、自由意見から伺えるところであります。

105ページには、市民意識に関する指標の増減傾向を掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。

130ページは、アンケート調査結果から、第2期根室市創生総合戦略に対する意識調査に関連する項目や自由意見を抜粋して、市民意識を整理・まとめたものであります。

まずは、(1)「ひと」と「しごと」を呼び込み、稼げる仕組みづくりと安定した雇用、新しい人の流れを作る。(基本目標1)に関する項目についてです。

当市の課題は、人口減少、少子高齢化、雇用の場の確保などが挙げられますが、特に、基幹産業である漁業や水産加工業の低迷が大きな影響を与えており、ロシア200海里内サケマス流し網漁に加え、近年のサンマや秋サケの不漁の影響、新型コロナウイルス感染症拡大による経済的影響、ロシアによるウクライナ侵攻など、市民生活に対して不安を抱いている傾向が伺えます。

こうした状況にあって、漁業に関しては、ベニザケ養殖技術開発や、ホタテ貝種苗放流など、「育てる漁業の推進」を図っているところではありますが、一方、水産業を取り巻く環境悪化を背景として、より即効性の高い企業誘致に対する期待が高まっており、「根室市企業立地促進条例」を年内に制定し、市内への投資や市外からの企業誘致を求める声が多くあるところでもあります。

次に、(2)住み続けられる「安心」と「支え合い」の地域を守り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。(基本目標2)に関する項目についてです。

当市における児童・生徒の学力の向上が課題となっていることから、ICTの活用や外国語指導助手の配置、通級教室の開設等の取組を実施しているところではありますが、これらの取組の成果検証を適宜行い、より効果的な事業へ継続・発展させていくことが重要であります。

子育て対策としては、①出産支援金、②新生児用おむつ、③3歳から5歳児の保育料、④小中学校の給食費、⑤高校生へのパソコン貸与、⑥子ども向け屋内遊戯施設の開設、の6つの支援施策を「第1期根室市創生総合戦略」に位置づけ実施してきたものであり、市の施策に対する一定の良い評価が見られたところでもあります。

また、医療環境に関しての不安は多く、特に昨今、看護師の不足が目立っている傾向が続いていることから、医療・介護人材の確保と育成について、その対策は急務であるとの指摘が多くあったところです。

次に、(3)みんなで実践する「市民協働」を推進し、時代にあった地域をつくり市民サービスを維持する。(基本目標3)に関する項目についてです。

当市は、人口減少や産業経済の停滞が続く中で、ふるさと納税制度の活用による成果は非常に大きく、総合戦略の計画的で着実な推進に大きく寄与しているものでありますが、さらに、若者から高齢者まで、市民ニーズを十分に把握する必要があります。

自由意見からは、「まちづくり人材の育成」や「移住したくなるようなまちの整備」のほか、「当市の景観・フィールドを活かした、デイキャンプ場の設置」や「若者とお年寄りがともに語り合える場」、「根室駅前に場外市場的な、市民や移住者、観光客が集える施設の整備」など、まちの賑わいづくりへの積極的な投資を求める意見が多くあったところでもあります。

その他、行政情報に関する要望、スポーツ振興のあり方、市民参加のまちづくり、地域活性化に関する内容が多く、また、市政情報をこのアンケート調査で初めて知ったとの意見も多数あったところであり、広報紙やSNSをはじめとする情報発信のあり方について課題があると考えられるところであり、施策効果を把握するためには、こうした各種施策の周知を図ることが重要であります。

**[市長]**

それでは、次に検証事項として、次に第2期の「根室市創生総合戦略」における取り組みの効果検証について、事務局より説明願います。

**(3) 第2期「根室市創生総合戦略」における令和3年度の取り組みの効果検証について**

---

**基本目標1**

---

○若い女性が住みたいと思う「まちづくり」を推進し、20～39歳の女性人口の減少を抑制する

**[説明：事務局・川崎室長] ※資料3に基づき説明**

数値目標の設定について

- ・20～39歳女性の人口を4年で43人減少を抑制し、1,665人確保
- ・生産年齢人口割合は4年で54.1%とし0.3ポイント向上
- ・人口減少率は4年で2.00%とし、0.44ポイント向上

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

(ア) 経済・雇用対策の推進

- ①経済・雇用対策の推進、農林漁業の持続的な発展及び担い手対策の推進と若年就業者定着化促進

[内部検証]

KPIの状況及び具体的事業の実施状況から「B 概ね順調に進んでいる」とし、今後の課題と対応方法については、引き続きつくり育てる漁業の推進に努めることが必要であると捉えております。

- ②労働力不足解消のための雇用のミスマッチ解消など需給不均衡の改善

[内部検証]

人口1,000人あたりの就職者数は増加しているものの、季節労働者数の増加により、通年雇用が減少している状況であることから、内部検証結果については、「C やや遅れている」と評価したところであり、改善するためにも、人材確保対策として、本市の産業機能として不足する分野での企業誘致活動の推進などによる、新たな雇用創出が必要であると捉えております。

- ③商工業後継者の不足に伴う事業承継のための支援等の充実

[内部検証]

KPIの状況及び具体的事業の実施状況から「B 概ね順調に進んでいる」とし、空き店舗への出店支援などの事業制度の周知を図り、雇用機会の充実など地域人材の確保につなげてまいりたいと考えております。

- ④UIターン者向け支援の充実による企業促進と労働力の確保

[内部検証]

KPIの状況及び具体的事業の実施状況から「B 概ね順調に進んでいる」とし、若い世代のUIターン者の促進を図るためにも、就学金の返還支援などの財政支援などにより、労働力の確保を図ることが必要だと捉えております。

⑤産学官金の連携及び農商工連携と6次産業化の促進

[内部検証]

連携協定を結んでいる東海大学や北海道科学大学等との共同研究による商品開発や新産業の創出など産学官連携の取組みが進んでおり、「B 概ね順調に進んでいる」と評価したところであり、引き続き取組みを推進していく考えであります。

⑥交流人口の拡大、世界に誇る自然、歴史、食の魅力を発信する観光プロモーションの強化

[内部検証]

コロナ禍による影響から外国人宿泊客数が急減している状況から、「C やや遅れている」と評価し、今後は、インバウンドの段階的回復に向けた取組みを推進していく考えであります。

⑥長期滞在者など交流人口の誘客強化と本格移住の促進

[内部検証]

KPIとその達成状況から、「概ね順調に進んでいる」と評価し、引き続き、医療従事者、介護人材などの青年層の移住を促進する必要があると捉えております。

[市長]

それでは、ただいまの説明を踏まえて、検証を行っていきたいと思います。

基本目標1は、主に産業・雇用に関する分野でございますが、ご意見などありましたら、伺っていきたいと思います。

[石井（吉）委員]

まず、報告事項にあった人口動態の中で、もともとは、地方創生のスタートラインは、若い女性に踏みとどまってもらうことが大きなポイントであるが、男性よりも女性の定住が悪くなっており、地方創生の効果からはマイナスの方向に進んでいる。今後、その部分を意識して、力を入れなければならないと思います。基本目標1において、単純におおむね順調と書いてあるが、2020年の社人研との比較で数値が良いからではなく、男性より女性のほうが残りづらい環境を問題視していかなければならない。なかなか難しいことは理解しているが、これからの重点ポイントは、女性の職開発につながるような整理をしていただいたほうが良いと思います。また、子供が生まれない傾向がコロナの影響で全国的に出ており、根室市においても強めの傾向が出ている。出生率は悪くなく、意識醸成などの対応で戻せると思うので、将来につながるのは、子供をどう出生していただくかというところに力を入れてほしい。

[関委員]

総合戦略の28ページで、長期滞在者の交流人口の誘客強化と本格移住の推進の根室市の移住者数は、令和3年で4人となっているが、内訳について、どのような人たちなのか教えてください。

[金田部長]

記載の移住者数については、市役所の移住に関する窓口相談された後、移住された方の実数となります。移住相談窓口への相談件数については、累計35件で、通常の年と比べてコロナ禍においては、人の動きはほとんどなかったのですが、今年に入ってから、相当相談件数が増えており、おそらく相談人数は80人近いのではと思っています。実際に根室に移住される方も10人ぐらいおり、もちろん転勤で動く方もたくさんいらっしゃいますが、そ

のうち、ご自身で起業される方などもいらっしゃいます。IT 業務を行う方もいるので、これからはそのような関心も高まり、移住者が増えていくのではと考えております。

#### [本間委員]

ふるさと納税がこれだけ良い状況にも関わらず、移住に結び付ける事業があまり見受けられない。コロナ禍においても、首都圏の周りの自治体でそれ以外でも増えているが、移住の戦略がしっかり出来ているからである。移住の入り口は、ふるさと納税でも良いと思うし、ふるさと納税を使って、どのようにしてこちらへ来させ、その後に、滞在、移住させて矢印が止まらないように進めることで、3桁くらいの移住者につながるかと思います。

#### [夫馬委員]

育てる漁業が非常に順調なのが印象的で、とても良いことだと思います。水産庁でも持続可能な漁業を推奨していこうと動いており、また、皆さんから見て持続可能な漁業に自信をお持ちだと思いますが、買う側として第三者から見てどうなのかとか、何かお墨付きがほしいというようなことがあれば、はるかに今よりも高い価値がでけますので、保障や認証を求める動きがどれくらい強まっているか、また、それが地元の漁業者でどれくらい対応できるのかとか、そのようなところが見られていくと、皆さんの漁業がもっと生きてくると思います。

2点目に、水産業について力をいれていることが、根室の特徴的なところかと思いますが、今、北海道の各地域でも色々なエネルギー産業とこれからは分散型エネルギーが出てきますので、徐々に根室でも、このような産業を戦略的に打ち出すことで、人も来たり、雇用を生み出せると思います。

最後に、雇用に関する内容となりますが、先ほどの人口動態で25～29歳で人が増加しているお話がありました。これは様々な要因があるかと思いますが、東京においても同様に25歳から後半の方については、非常に活発です。この方々については、プラスに行動されている面もあれば、もう疲れてしまったという方もおります。地元に戻られる方については、必ずしも再び輝いていただけるかどうかは、イコールではないと思いますので、再び輝かしていくための支援が必要になってくると思います。

また、20代の方の働き方の感覚など、我々の年代と全然違います。先ほどのお話で、地元で移住されデジタルで起業されているお話がありましたが、何が働きやすい環境なのか、また勤務されている方でも、どのような会社であれば働きやすいのか、彼らの常識というものに寄り添っていく必要があると思います。特に若年の雇用面については、若年者を集めた会議や検討会を作らないと、企画する側の変化が必要になってくるかと思います。

#### [木村委員]

皆さんと重複する部分がありますが、やはり特に大事なことは、若い女性をいかに確保することが大きなポイントだと思います。あまり現実的ではないかもしれませんが、1度市外に出て様々な経験や人脈を形成した上で、もう一度根室へ戻り、活躍してもらうことは、本来的に良い活躍をしていただけるのではと思います。ただ、その時には地元に戻って来やすい、戻ってやりがいのある仕事が必要ではと思います。やはり根室の圧倒的な水産物のブランド力をまず生かせるのが大事で、その時に育てる漁業が非常に活発であるということ、また、水産加工などの面でも全部6次産業化で、これまでの漁業と違う形で技術や産業に可能性があり、そこに若い女性が働きやすい、やりがいがあるところにつながると思う。

私は漁業については専門じゃないので、おこがましいこと言えませんが、ここがポイントという気がしています。あとは、観光を含めてブランドを発信するためのプロモーションの発信、ウェブ等の媒体でも、これまででない女性の活躍できるポイントがあると思います。



[市長]

基本目標1について全体の評価をしていきたいと思いますが、各施策の状況を踏まえて、石井吉春先生はどのような評価をされますでしょうか。

[石井（吉）委員]

全体的におおむね順調だと思いますが、やはり若い女性の定着に課題があり、その認識を示し、来年以降、具体的に考えていただきたいと思います。

[本間委員]

若い女性を設定した大目標があるのにかかわらず、大目標が欠け抜けて、おおむね順調にはならないと思いますが、いかがでしょうか。

[市長]

自己評価が低い方が正解だと思いますので、おおむね順調ではなく、「C やや遅れている」としたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

[石井（吉）委員]

「C やや遅れている」でよろしいかと思います。

※【委員了承】

---

## 基本目標2

---

○住み続けられる「安心」と「支え合い」の地域を守り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

[説明：事務局・川崎室長] ※資料3に基づき説明

数値目標の設定について

- ・人口減少率は、4年で2.00%とし0.44ポイント向上
- ・年少人口割合は、4年で10.2%とし0.2ポイント向上
- ・合計特殊出生率を現状値である、1.67以上の水準維持

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

(ア) Society 5.0（ソサエティ5.0）時代に向けた人材育成

①良好な教育環境の整備と義務教育の充実

[内部検証]

これらの達成状況から内部検証結果については、「B 概ね順調に進んでいる」と評価し、GIGAスクール構想による小中学校への1人1台のICT機器など、良好な環境を整えたことが、子どもたちに個別に最適化された質の高い学びを提供でき、学力向上につながっていると捉えております。

(イ) 子育て・少子化対策の推進

①出会い、結婚、妊娠、出産、育児に関する機会や相談、支援体制の強化

[内部検証]

KPIと達成状況から、内部検証結果については、「B 概ね順調に進んでいる」と評価したところではありますが、引き続き、子育て支援体制の強化を図ることが必要であると捉えております

②子ども医療費助成など子育て世代の経済的な負担軽減の推進

[内部検証]

内部検証結果は「概ね順調に進んでいる」と評価しました。一方、依然として、少子化・子育て支援に係る経済負担軽減を求める市民要望は高く、これまで、出産支援金の支給や3歳～5歳児の保育料無償化、小中学校の給食費無償化など子育て世代を応援する取組みを実施してきましたが、今後も引き続き子育てしやすい環境の充実に努める取組みを検討する必要があると捉えております。

③保育施設の整備と多様な子育て支援サービスの充実

[内部検証]

市民要望の高かった、「ふるさと遊びの広場」が完成し、多くの子育て世代の方々に好評をいただいているほか、修学資金の貸付後にUIターンした幼稚園教諭の人数も順調に増えており、「B 概ね順調に進んでいる」と評価しております。

(ウ) 周産期医療と小児医療体制の整備

①安心して子どもを産み育てられる周産期医療と小児医療体制の整備

[内部検証]

内部検証結果「概ね順調に進んでいる」と評価したところでありますが、引き続き市民が安心して出産、子育てできる環境づくりに努めていく考えであります。

[市長]

それでは、ただいまの説明を踏まえて、検証を行っていききたいと思います。

基本目標2は、主に子育て・少子化対策に関する分野でございますが、ご意見などありましたら、伺っていききたいと思います。

[川前委員]

資料1の人口動態分析の紹介いただきましたが、参考資料16ページの年齢別人口で0歳～4歳の人口が582人で、人数を5年で割ると1年間で116人になると考えたときに、皆さんがどの思うのか、聞いてみたいなと思いました。

また、前回の会議の後に拝見させていただきました、昨年12月に開館された「わんぱく」の施設については、若い世代のお子さんを連れて行きながら、他の子供さんの様子も見る事ができるので、とても安心して子育てできる環境を根室市さんが作られたなということが、今日の意識調査結果からも散見されたかなと思います。行政の政策としては良かったと感想を持っております。

根室市内での出産する場合の環境について、前回までの会議の中でもお話があったと思いますが、やはり産婦人科等の充実が重要で、釧路管内や中標津の方に行かれている方もいると思います。女性の確保だけが重要ではないことも、考えていかなければいけないと改めて指摘しておきたいと思っております。

教育は数値化して、あの効果が見えてくるのは時間がかかるものなので、1つ1つの数値が高くなったとか、低くなってもネガティブには考えたくないなと思いますが、施設ができたところで、若い世代のお父さんのお母さん方が子育てしやすい環境が整っていることにこれから期待したいなと思いました。

[木村委員]

教育関係でお答えさせていただきます。GIGAスクール構想により、子供たち1人1台端末を持つことで、ものすごく大きな効果が現場で出ています。例えば、数年前までは小学生向けにプログラミングの授業において、あのキーボードの使い方とかローマ字をどのように

打つかを授業で教えなければなりませんでした。

しかし、ここ数年はこのような状況ではなく、昨年度、落石中学校でプログラミング授業を行いました。子供たちも当たり前ローマ字が理解でき、当たり前キーボードを打てる状況になっています。

これからは、デジタルネイティブの世代が、自分のチームとして新しいアイデアを出すということに非常に大きな可能性があると思います。先ほど、夫馬先生の話がありましたとおり、大人が変に口出しするのではなく、若い世代がアイデアを出して、それを大人一緒に支え育てていく、そのような社会の仕組みを作ることが大事だと思います。

#### [石井（吉）委員]

市民意識調査の中で、子育て環境に関しては高まっていて、高齢者の環境については、逆に満足度が低くなっている結果を頂きましたが、このようになることは当然だと思います。私も自分は高齢者ではありますが、この結果から高齢者への対処療法をしなければならぬと考えるのは、やめていただきたいと思います。

むしろ、重点的に次世代をどうしていくかが、地方創生の1つの考え方であるので、実際に子育て支援については、ふるさと納税を使って行っている事業が多いですが、いずれ社会保障の誰をターゲットするか、分配を変える方法へ進まなければ、やはり子育て支援がメインになると思います。

このことを意識することに慣れていただいて、根室市全体としては若い世代に手厚い魅力的な地域社会を創るというのが、あの正しい流れだと思います。今の高齢者は、かなり豊かな世代であるのにトランスファーを期待しているというところがあると思います。

#### [本間委員]

39ページに記載の幼稚園修学資金の貸付後にUIターンについては、平成27年から令和2年までの間に6人だったのが、9人になったことは、おおむね順調であるといえるわけです。知り合いの娘さんが、幼稚園の先生なのですが、彼女にこの修学資金の貸し付けを受けたか聞いたところ、知らなかったとのことで、PRが微妙かといえると思います。例えば、今年に卒業する2年生ぐらいの方に対して、このような制度があり、地元に戻ってくるができること伝えるなど、この制度を幾つかの戦略を組み合わせることで、女性人口を増やしていくことができると思います。

#### [市長]

来年度からは、奨学金の借りている種類に関係なく、応援できる制度にしたいと考えています。

ご意見を頂きましたので、基本目標2について、全体の評価をしていきたいと思っています。各施策の状況を踏まえて、石井吉春先生は、どのような評価をされますでしょうか。

#### [石井（吉）委員]

「B 概ね順調に進んでいる」という評価になると思いますが、いかがでしょうか。

#### [市長]

ありがとうございます。ただいま、石井先生からご意見をいただき、基本目標2の評価については、「B 概ね順調に進んでいる」と評価させていただきますが、皆さんいかがでしょうか。※【委員了承】

それでは、引き続き、基本目標3について事務局より説明願います。

### 基本目標3

○みんなで実践する「市民協働」を推進し、時代にあった地域をつくり市民サービスを維持する

#### 〔説明：事務局・川崎室長〕※資料3に基づき説明

数値目標の設定について

- ・継続的に市を支援する寄附者件数を4年で90万件増加
- ・まちづくりへ参加したいと思う市民の割合を4年で85.0%とし、13.3ポイント向上

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

#### （ア）コミュニティの維持・活性化

- ①市民活動団体の育成や市民活動の組織化、ネットワーク化の支援並びにシビックプライドの醸成

#### 〔内部検証〕

KPIとその達成状況から内部検証結果については、「C やや遅れている」と評価し、改善するためには、市民のまちづくりへの参加意識を向上するために、市民活動の活性化につながる取組の推進を図る必要があると捉えております。

- ②多様な主体がまちづくりに関わる市民協働・市民参画の推進

#### 〔内部検証〕

KPIとその達成状況から、内部検証結果については、「C やや遅れている」と評価したところであり、市民がまちの未来を創るという意識の醸成を図る必要があると捉えております。

- ③地域と多様な関わりを持つ関係人口の創出・拡大

#### 〔内部検証〕

KPIとその達成状況から、内部検証結果は「A 順調に進んでいる」と評価しました。ふるさと納税については、令和3年度においても、全国から77.4万人もの応援をいただき、累計で約270万人の関係人口の創出と拡大を図ることができました。この成果を地方創生に最大限に活かし、次なる戦略を進めていきたいと考えております。

#### （イ）地方創生の計画的な推進

- ①ふるさと納税制度の推進と寄附金を活用した地方創生

#### 〔内部検証〕

KPIとその達成状況から、内部検証結果は「A 順調に進んでいる」と評価しました。今後も、ふるさと納税制度を根室市の発展資源として捉え、根室市の創生を推進する考えであります。

#### （ウ）広域連携の推進

- ①ふるさと納税制度の推進と寄附金を活用とした地方創生

#### 〔内部検証〕

KPIとその達成状況から、内部検証結果は「B 概ね順調に進んでいる」と評価したところですが、引き続き、市内小・中学校や義務教育学校、高等学校へ整備したICT環境を活用し、連携協定を締結している大学とのオンラインによる教育活動な

どの新しい学び方や教職員研修による連携を推進する考えであります。

#### [市長]

それでは、ただいまの説明を踏まえて、検証を行っていききたいと思います。

基本目標3は、主に市民協働・地域づくりに関する分野でございますが、ご意見などありましたら、伺っていききたいと思います。

#### [夫馬委員]

まず1つ目ですね。コミュニティについては、根室市だけではないと思いますが、女性の方にとって、やはり市役所という存在が、非常に遠いという感覚があるかなと思います。市役所のこの場に出てきていただくとか、敷居が高いのかなと思いますので、その女性の参画という意味でも、元々女性の方が行っていらっしゃるお店かもしれませんし、施設かもしれませんし、そちら側に出ていくことで、何かの声を拾う、何かに関わっていただくというような動き方が、これから必要となってくるかもしれないかなと思います。

また、もう1つの関係人口については、ふるさと納税は順調に進んでいるのだなということだと思います。このふるさと納税をどのように観光や移住などに繋げていくのが大事になってくるかなと思います。

特に観光面では、今1つのキーワードは人数だけではなく、単価、体験と言われ、今までの観光とは、泊まって食べて帰るというような形でしたが、今は泊まって食べて体験をして、そこにもお金を使っていただくと地元の特有の価値も出てきますし、観光で単価もあげられ一石二鳥ですので、ふるさと納税のネットワークに体験価値を掲示できるかどうか、高単価になるかなと思いますので、そこにぜひ繋げていただければと思います。

#### [石井（吉）委員]

ふるさと納税の件について、制度の持続性が心配になってくる時期になってきたかと思います。根室としてふるさと納税の活用の最終ステージというか、ある程度、持続的に根室市民に繋がるような用途を作っていかなければと思います。最終仕上げとしては、やはり、女性を中心とする、雇用確保につながる事業に、特化して重点的に対応するってことが必要だと思います。

観光については、お金がかかりますが、花咲線を軸にどう組み立てるかは重要な戦略で、上手に行えばその後の滞在型観光に繋げる可能性があるというところだと思うので、戦略的には予算をとっていただく必要があると思います。

また、一次産業は、元々女性の雇用が弱い分野ですが、いわゆる栽培型、特に陸上養殖まで踏み込んで徹底して転換すれば、女性型の雇用について、かなり質が変わる雇用となりますので、一次産業ならではの女性の雇用の輪の少なさを、戦略的に補う重要な分野になるかと思います。いくつかのターゲットを絞って、取り組んでいただくということをぜひご検討いただければと思います。

評価に関係ない内容かもしれませんが、そのようなことをお願いしたいと思います。

#### [本間委員]

51ページのふるさと納税についてであります。先ほど関連づけた方が良いのではと意見があったかと思います。本来であれば策定時にそのように言えば良かったと反省しています。これからでも良いですから、目標としてこれが移住などにどれだけ繋がっているかというKPIを1つ作った方がよいのではないかと思います。そうすれば、それが1つの目標に見えてくると思いますし、数字として現れる事業を掲載する必要があると思います。

#### [岡野委員]

ふるさと納税をきっかけとして、明らかに観光客が増えていると思います。具体的には、ふ

るさと納税の資源を利用して、花咲線のPRなど大体的に行っていただいたおかげで、花咲線を利用して根室に来るお客様は、今までとは比べ物にならないくらい増えているという結果はあると思います。ただ、私も感覚的なものでしかありませんので、それを具体的な数字で評価に出せれば良いのかなと思っております。

観光の現場で、今どのようなことが起きているかという、例えば入れ込みについては、具体的に道の駅のレストランで言うと、レストランの売り上げは120%ぐらいありますが、コロナ前に比べて6割ぐらいしかありません。

その要因は、人手不足で団体の予約など断らざるを得ない状況だからです。大体冬から春にかけて1年分の予約エージェントをとって、結構旅行を組み立てるのですが、その段階で人の確保が難しいと断らざるを得ないという状況が起きています。

また、根室市内のあるレストランにおいては、もう中抜けで営業できないという状況が起きているので、観光客が折角来ていただいたのに、ふるさと納税でいいイメージがあるのにもかかわらず、美味しいものを体感できないっていうのが、残念なことだと思っています。観光産業をしっかりと育てることをやっていかなければならないと思います。

[市長]

各施策の状況を踏まえて、石井吉春先生は、どのような評価をされますでしょうか。

[石井（吉）委員]

こちらについても、「B 概ね順調に進んでいる」という評価でいいと思います。もう少し良い評価でも良いかもしれませんが、まだまだやるべきところがあるという意味で、この評価にしたいと思います。

[市長]

ありがとうございます。基本目標3については、「B 概ね順調に進んでいる」という評価でよろしいでしょうか。

※【委員了承】

では、基本目標1から基本目標3まで、全ての外部評価をいただきました、**基本目標1については「C やや遅れている」、基本目標2については「B 概ね順調に進んでいる」、基本目標3については「B 概ね順調に進んでいる」という評価になりました。**

#### 4 協議事項（進行：石垣市長）

[市長]

続きまして、協議事項の根室市創生総合戦略の一部改訂について、事務局より説明願います。

(1) 根室市創生総合戦略の一部改訂について [説明：事務局・川崎室長]

※資料5に基づき、基本目標1～3まで一括説明

根室市創生総合戦略の一部改訂について説明いたします。今回の改訂につきましては、先程ご報告いたしました市民意識調査結果並びに令和3年度の取組みの検証結果を踏まえ、協議をいただくものであります。

資料5、第2期根室市創生総合戦略（一部改訂案）の10ページをご覧ください。本総合戦略の着実な実行による地域課題の解決に向けた取組みを推進するため、3つの重点プロジェクトを掲げております。

その一つ目は、安定した雇用、新しい人の流れをつくる「チャレンジ」であります。取組む施策につきましては、下段に記載しておりますが、点線で囲んだ施策のうち、基幹産業である水産業や水産加工業の低迷が大きく影響を及ぼしていることから、沿岸漁業資源の維持・増大が図られ、安定した漁業経営が確立するためにも、引き続き、つくり育てる漁業の推進を図ることが必要であると考えております。

また、今後のインバウンド需要の段階的回復に向け、受入れ環境の整備を図る取組みとして、交流人口の増を支える受入れキャパシティの確保に向けたホテル誘致など企業誘致を推進する必要があると捉えております。

さらに、市内では、第1次産業を支える後継者不足や、最重要課題として、看護師をはじめとする医療従事者や介護従事者が慢性的に不足している状況にあり、そうした人材確保対策は急務であります。

こうした点を踏まえまして、14ページ中段になります、具体的な事業に新規事業として、陸上養殖を研究する取組みと、新規就農者を受入れする農家を支援する取組みを追加し、次ページ中段になります、具体的な事業のうち、企業誘致推進を重点事業として位置づけさせていただいております。

17ページをお開き下さい。人材確保に係る新規事業として、返済を免除する修学資金貸付の対象職種に、これまでの医療従事者や介護従事者に加え、不足する歯科衛生士を加えるほか、奨学金の返済支援等をおこなう企業を支援する取組みを追加しております。

ページ戻りますが、11ページをご覧ください。

重点プロジェクトの2つ目は、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる「チェンジ」であります。

本市では、これまで、子育て対策として、①出産支援金、②新生児用おむつ、③3歳から5歳児の保育料、④小中学校の給食費、⑤高校生へのパソコン貸与、⑥子ども向け屋内遊戯施設の開設という6つの支援施策を実施して、一定の評価をいただいておりますが、依然として少子化・子育て支援に係る経済負担軽減を求める市民要望は高い傾向にあり、更なる子育て世帯への経済的負担の軽減策などにより、子育て環境の整備を図ることが必要であると捉えております。

こうした点を踏まえて、23ページ中段以降になります、具体的な事業に新規事業として、結婚後の新生活に係る費用を支援する取組みや、放課後教室の開館・受入時間の繰り上げを検討して参りたいと考えております。

また、24ページをご覧ください。これまで取組んできた子育て支援に係る6つの無償化支援に加え、7つ目となる支援施策として、18歳以下の高校生までの「子ども医療の完全費無償化」を実現するとともに、従来の「3～5歳児・保育料無償化」に加えて、新たに「0～2歳児・保育料の減免制度」を創設するほか、遠距離通学する高校生の交通費を一部助成し、子育て世代の経済的な負担軽減を図り、子育てしやすい環境の充実に努めて参りたいと思っております。

ページ戻りますが、11ページ中段以降をご覧ください。

重点プロジェクトの3つ目は、時代にあった地域をつくり、市民サービスを維持する「コラボレーション」であります。

本分野、人材育成分野になりますが、先程の事業検証からもあまり活発ではない状況と捉えております。その一方、ふるさと納税は好調であり、引き続き関係人口対策に取り組んでいく考えであります。本市を取巻く環境、人口減少や産業経済の停滞が続く中で、ふるさと納税制度の活用による成果は非常に大きく、総合戦略の計画的で着実な推進に大きく寄与しております。

こうした点を踏まえ、ふるさと納税制度を根室市の発展資源として、目的別に設置した地方創生関連基金への計画的な積み増しと積極的な活用により、根室市創生を推進して参りたいと考えており、30ページにあります、ふるさと納税に係るDX化を推進する新たな取組みを進めて参りたいと考えております。

以上、ご説明したとおり、事業の追加、時点修正を行ったところであります。追加、時点修正した箇所については、14ページ以降、朱書きで加筆させていただいており、一部改定案にご承認をいただきましたら、令和5年度予算に反映して参りたいと考えております。

また、次期総合戦略を見据え、持続可能で豊かな社会の実現を目指すESG分野、本分野、夫馬委員の専門分野であります。夫馬委員にアドバイスをいただきながら、知見を深めていきたいと思っております。

さらに、市民意見として、当市の景観・フィールドを活かしたデイキャンプ場や野遊びや焚火ができる場の設置を求める声も寄せられているところであり、調査研究して参りたいと考えております。

#### [本間委員]

17ページの歯科衛生士の返済免除がようやく入ったなと思っております。3年前に根室高校の卒業生で、中学校の頃から歯科衛生士になりたい子がおりましたが、あしなが育英会からの奨学金は返せないということで断念しました。あと3年後であれば、歯科衛生士で働いていたと思います。この制度はとても良いと思いますので、UIターンに結び付け、上手にプロモーションを行い、ソフトにお金をかける形が良いと思います。

#### [関委員]

先ほど、起業している人も多いというお話を聞きました。全国の漁村を回っておりますが、若い人が多くの方が起業し、クルマエビの養殖を経営し、加工品をつくる方などそのような方も多くおります。今後、根室市が企業を誘致できる場所になれば、とても魅力的なまちになると思いました。そして、起業できる人材を取り込んで、ネットワークを取り込んでいく視点もあって良いかと思いました。

#### [市長]

全体として、石井先生から何かありますでしょうか。

#### [石井（吉）委員]

市役所の取り組みとして、当初はおそろおそろなところがあったかと思いますが、ふるさと納税でエネルギーを得て、いろいろと取り組む形になってきたと思います。市の皆さんには大変頑張ってもらっていると率直に申し上げたいと思います。逆に言うと、ここまで進んでくると、



ある種、具体的に取り組むところが絞れてきたと思いますので、重点的に戦略に取り組むところを意識し、特性を生かせる事業を一つずつ創って考えていただきたいと思います。

**[市長]**

それでは、根室市創生総合戦略について、事務局案のとおり、一部改正することによろしいでしょうか。※【委員了承】

**[事務局（川崎室長）]**

ただ今いただいたご意見をもとに、第2期創生総合戦略について一部改訂をいたしまして、後ほど郵送させていただきます。

**[市長]**

それでは、以上で会議は終了いたしますが、大変貴重なご意見をいただきました、それでは以上で会議を終了いたします。総合戦略に基づいた事業を着実に推進するため、今後とも委員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、本日の終了といたします。

誠にありがとうございました。

(了)